

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 4年3月22日

学校法人星和学園  
幼保連携型認定こども園  
星和幼稚園

## 1. 本園の教育目標

神に創られ愛されている存在として、いろいろな体験を通し、心の調和を図り、神と人とを愛する。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・新型コロナウイルス感染防止に努める。
  - ・コロナ禍にあっても子どもたちに対して文化的生活を保障できるように保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。
- ・保護者との連携を大切にし、家庭と幼稚園双方で子どもを育てていく環境を作る。
- ・園外での研修会に参加することは難しいため、園内研修に力を入れ、一人一人の保育者が、目的意識を持って自ら学ぶ機会を作る。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	新型コロナウイルス感染防止に努める	B	<p>昨年度から引き続きハセツパー水の噴霧をした。今年度は、新たに購入した園バスにも光触媒を施し、8月には厚生労働省により新型コロナウイルスに有効と認められた界面活性剤を使用した「Vケア・ソリューションズ」を園内に施行した。</p> <p>給食時には手作りパーテーションで飛沫を防ぎ、子どもたちにはなるべく話をしないで食べるように、指導を徹底した。3学期には全学年が黙食ができるようになった。</p> <p>手洗いうがいを今まで以上に徹底し、ハンドソープを随時使用できるように流しやトイレに設置した。</p> <p>熱中症が心配される時期には、適宜マスクを外させたが、基本的にはマスクを着用するよう保護者にもお願いした。保護者の中にはマスクをすることによる弊害を訴える方もいらしたので、その場合はマスクを使用しないことも良しとした。</p> <p>行事や保護者会など保護者参加のものは、感染防止のため人数を少なくしたり、中止にしたりして対応した。</p> <p>保護者が園内に入るときには検温を実施し、必ず消毒をしていただくように徹底した。</p> <p>8月にデルタ株がはやったときに、保育士からも子どもからも感染者が出たが、市の保育課、保健所、ふじみ野救急病院に丁寧に対応していただき、混乱することなく、保護者対応を行うことが出来た。又、2月中旬から保育部の職員に単発的にコロナ陽性がでて職員の数が不足する中、働いている保護者のため開園し続けたが、子どもたちの中からも陽性者がでたため、3月3日から13日まで0-2歳児クラスは学年閉鎖を行った。3月に入ってから教育部で陽性者が出たため、感染拡大を防ぐため、年長組を学年閉鎖、年中の1つの組を学級閉鎖とした。</p>

2	保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。	A	<p>9月の緊急事態宣言下では、昨年度の反省を踏まえ、登園自粛をしている子どもたちのためにYouTube等で歌や家庭でもできる簡単な遊びなどを紹介した。運動会の練習の時期であったが、それもみんなでそろってはできないため、各学年でダンスを録画しYouTubeで配信したところ、他学年の踊りも見ることが出来たようで、学年を越えてダンスを楽しみ、運動会ではみんなで積極的に喜んで参加する姿が見られ、大変好評だった。</p> <p>また、行事を年長児中心の行事として行い、子どもたち自身が企画し取り組むことができたので、創意、工夫を凝らし生き生きと取り組む姿が見られた。</p> <p>コロナ禍で、不安になりがちなか状況が多い中、教職員が一丸となって協力し、毎日元気に仕事につけるように、朝皆で心を合わせて祈り、自分の携わっているこの仕事がどれだけ意味のあるものかという価値を再確認した。終礼では一日を感謝し、保育で気になったことや困ったことなどはお互いに話し合いながらより良い保育ができるように工夫してきた。</p>
3	保護者への説明、報告などを丁寧に行い信頼関係を作る。	A	<p>コロナ禍で不安になりがちなか保護者の気持ちをくみ取り、できるだけ耳を傾け対応にあたるように心がけた。マスクの着用等についても様々なご意見があったが、子どもを守りたいという点ではみな同じ思いであるということをお伝えし、それぞれの意見を尊重する形で対応するようにした。</p> <p>新型コロナウイルス感染対応のフローチャートを配布しており、保護者の方にも浸透していたので、実際にコロナに感染された時に園への連絡をすぐにご迷惑な方が多かった。</p> <p>母の会の役員を園から指名し、最小限の活動を行うようにした。役員とは連絡を密にし、不安にならないように常にサポートできる体制を取った。</p> <p>また、日々の保育で子どものけがや人間関係でのトラブルなどがあった場合にはきちんと報告し、その状況を保護者が的確に理解できるように努めた。</p>
4	保育教諭自らが目的意識を持ち園内研修を主催し、お互いに研鑽を深める機会を持つ。	A	<p>外部の研修会に参加が難しいため、保育専門書を購入し、先生達が自ら興味関心を持ったことについてそれぞれ研究し、園内研修を主催することができた。みな積極的に取り組み、身近な話題について役立つ情報を共有できた。</p>

評価(A...十分に成果があった B...成果があった C...少し成果があった D...成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
----	----

A	<p>コロナ禍という特別な状況が2年目になり、昨年度の経験も踏まえ、子どもたち一人一人が伸び伸びと過ごせる環境を作り出すことができた。行事などは、保護者の手を借りずに行うことによってより子どもたち主体の活動が展開でき、子どもの成長をよく感じることができた。</p> <p>いろいろと難しい状況下においても教職員、保護者が一致し、混乱することなく対処できたこと、また特に3月に入ってからのおミクロン株の対応では、保健所ではなく市の保育課が対応にあたってくださり、常に支えてくださったことには心から感謝している。この地域で働く保護者の支えとしての役割の大きさを実感した一年となった。又、働く保護者を支えてくださったのが、仕事を持たないお母さんたちであったこともここに記し、心から感謝したい。ふじみ野市を中心に川越市、富士見市の保護者が心ひとつになり子どもたちの健やかな成長を望み、そのために力を合わせることが出来た。</p> <p>園内研修を先生たちが主体的に行うことによって一人一人の教職員の質の向上につながり、意識の向上を図ることができた。</p>
---	--

評価 (A...十分に成果があった B...成果があった C...少し成果があった D...成果がなかった)

### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	個々の保育士の保育に対する知識や方法の向上	今年度1年で、現在働いてくださっている先生方の質の向上を図ることができたが、来年度はまた新人を2人迎える。それぞれがより積極的に保育に取り組めるように引き続き、自ら考え積極的に動けるような環境を作っていく。また、園内研修の内容を、個々の保育士に課題意識を持って参加してもらえるように工夫する。
2	危機管理意識の向上と取り組み	新型コロナウイルスに見られる感染防止対策をはじめ、自然災害に対する意識も深め、危機管理について全員が意識を持って取り組めるように「可視化」したり、話し合ったり、実際に訓練したりという機会を引き続き行っていく。特に巨大地震が起きた時の対応と水害が起きたときについて準備する。
3	働き方改革に言われる労働時間の短縮と働き方の工夫	勤務時間を守って早く帰るように勧めるだけでなく、仕事の内容も把握し、何が大切なことで残すべきか、何を削減できるかを共に考え、より良い環境づくりに努めたい。また、ICT化を進め、簡素化できる部分は簡素化できるように努める。

### 6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年に引き続き、子どもの数は安定している。これは昨年度から始めた満3歳児クラスの影響、そして地域に根差した園に成長しつつあることの結果ととらえることができる。

コロナ禍の難しい状況にあって、適切な運営を目指すとともに、子どもたちの文化的教育と保護者対応にも尽力されたことは評価すべき点である。先生方の意識がより積極的になったとの報告は素晴らしいと感じた。また、産休・育休をとられた職員もおられると聞き、休業後に復帰したい職場ととらえられていると受け止めた。引き続き、日々の保育の向上とともに、先生方の育成に力を入れ、益々よい園に成長していくことを願っている。

#### 【参 照】

##### 保護者の園に対する評価

今年度は保護者が参加できる行事も減り、保護者の声を具体的に集める機会は少なかったが、参観のしおりや個人面談前のアンケートを見ると、子どもの成長を喜ぶ記述が多くあり安心するとともに感謝した。

おおむね、園の方針や保育そのものを通しての子供たちの成長に対する満足度は高かった。

また、コロナ禍にあって、園の対応に対して意見や伺いはあったものの批判はなく、おおむね理解と協力の姿勢で答えていただくことができた。また、たくさんの保護者からこのコロナ禍での対応に対してねぎらいの言葉をいただくことができた。